2027 年度　日野市立病院　（病床数　300）【1年次】

受入人数	【1年次】1名

常勤・非常勤	研修手当						勤務時間	休暇				当直/月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与		時間外	休日		有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤	300,000		0		有	有	8:30～17:00	20		5	有	1～2回	無（家賃50%分の住宅手当あり）	共済組合，厚生年金，労災保険，雇用保険

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	研修期間は6ヶ月であり、腎臓内分泌代謝、消化器、呼吸器、循環器を1-2ヶ月で研修医の希望に合わせてローテート可能な柔軟なカリキュラムが特徴です。内科指導医が6名在籍しており、初期研修医は基幹型を含めて少人数体制ですので部長・医長クラスの医師からの直接指導を受ける機会が多いことも特徴です。カリキュラムは研修中でも研修医の希望で変更は可能です。 地域の基幹病院であるため多くの2次救急患者を受け入れており、救急車による内科系患者は外来・入院合わせて1096人、全体の37.9%.(2025年度)でした。また、初診外来は症例豊富でcommon diseaseの宝庫です。プライマリケアーや臨床医の基本を学ぶには最適な環境です。ローテート中はスタッフによるクルズスを適宜行っております。 部長・医長クラスの医師の指導が基本のため、検査手技に関してはかなりのレベルまでの研修を提供できます。消化器内視鏡検査、気管支鏡検査、血液浄化法、腎生検、腹膜透析、心臓カテーテル治療などの経験が可能です。
救急科	地域の基幹病院として求められている救急医療を充実させるために2016年度に救急科が新設されました。初期研修医に求められていることは、医師としての基本的診療能力を身に付けることです。救急科では多領域にわたるあらゆる傷病を経験できます。医師として最低限必要な救命処置を習得でき、かつ今後の専門分野を決めていく上で価値ある経験ができます。 救急科は常勤1名、非常勤数名で主に救急車で搬送された症例を初期対応し、病気やけがの種類、治療の経過応じて適切な診療科と連携して診療に当たります。 救急車による搬送患者は年間約3000台で300床レベルの二次救急病院としてはトップレベルであり、内因性、外因性問わず多種多彩な症例を経験できます。複数科にまたがる症例や境界領域の症例など、従来の各科医療では対応が難しい振り分け困難症例は当科で入院治療まで行っていますので、様々な疾患を広くかつ深く学べます。三次救急の研修を希望される場合は、近隣の救命救急センターで研修する選択肢もあり、様々なニーズに対応しています。
外科	外科病床数は46床で、消化器外科、血管外科、小児外科の手術を年間約800症例行っています。その中で緊急手術の占める割合は約20%です。日野市立病院外科の特徴としては、消化器外科のcommon diseaseである急性虫垂炎と鼠径ヘルニアが年間の術件数として100件を超えていること、また高齢者を抱えている施設が多数存在するため80歳代を中心とした急性期の胆道系疾患や大腸がんを中心とした悪性疾患が多く存在していることが挙げられると思います。直接手を洗って手術を術野から見学していただくだけではなく、手術の基本手技となるハサミの使い方動かし方や糸結び止血法、縫合法などをしっかり身につけて頂き、最終的に小手術は術者として行ってもらいたいと思います。一番研修していただきたいのは、救急の現場で診断を行った上で初期治療を行い、手術になるような症例に対しての手配などを後期研修医と一緒になって経験していただき、最終的には急性虫垂炎や鼠径ヘルニアを術者として行ってもらいます。また、症例として機会に恵まれた際には、外科集談会や日本腹部救急学会での症例報告を行ってもらいます。
小児科	小児科の病床は18と規模は大きくありませんが、夜間救急を含む365日24時間の診療体制を構築しています。年間救急車応需は500件を超え、研修医が学ぶべきコモン・ディジーズの月間入院数は都内6位（H29 病院情報局調べ）を達成しています。手技は基本的に研修医が1st call となり、上級医の元で十分に経験可能です。朝・夕のカンファレンスで指導医の元、診療の方針決定を行っており、気軽に上級医と相談できる環境です。
産婦人科	周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性医学の4分野のうち、周産期と婦人科良性疾患により重点を置いています。周産期では、年間分娩数約200件に加え、超音波・遺伝相談外来を設け、出生前カウンセリングや、精密胎児超音波検査、各種出生前検査も行っており、一般の産科外来より、より専門的な外来も見ることができます。また、婦人科手術では、開腹手術に加え、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術、膣式手術も行っており、手洗いをして手術に一緒に入って見学できます。研修して頂きたい内容としては、糸結びや縫合のような手技や、経腟分娩の進行や帝王切開の術式を理解すること、骨盤内の解剖を理解することなどです。研修の最後には、一緒に分娩や帝王切開に入って、児を取り上げたり、婦人科手術では開腹手術であれば、術者として行ってもらえる機会を作りたいと思います。また、産婦人科の救急疾患の診察や、妊婦の合併疾患に関しては、自らが診療にあたることで、何に注意すべきか見いだせることが多いため、当院の少人数での研修は、今後どの科に進んでも貴重な経験になることと思います。
精神科	連携病院にて研修実施（桜ヶ丘記念病院）
一般外来	上記表記参照

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科

○研修アピール
日野市立病院は中央線豊田駅(新宿駅から中央特快で35分)から徒歩10分の位置にある、6階建てのきれいな公立病院です。日野市は緑と多摩川の清流の街であり、病院は市立公園に隣接し眼下に市営テニスコートを見下ろせます。天気が良いときは富士山の雄大な景色も望めます。都心からのアクセスだけでなく、近隣に大型ショッピング施設や飲食店も揃い、様々な面で研修しやすい環境です。
当院は300床17科の2次救急病院であり、年間約2,900件（2025年度）の救急搬送を受け入れています。腎臓内分泌代謝・消化器・呼吸器を主とする内科、循環器科、外科、整形外科、小児科、脳神経外科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、歯科口腔外科、放射線科、救急科は症例も充実しており、それぞれ専門医が配置されています。
心カテ・消化器内視鏡手技・消化器外科・脊椎手術・IVR(血管内治療)等、質の高い医療を提供できます。研修医が多数のため実地研修の機会が乏しくなるような大病院とは違い、本人のやる気次第でマンツーマンの研修により豊富な臨床研修体験が得られると思います。スタッフもベテラン以外に若手も充実しており、親身な指導を心がけております。また慶應義塾大学関連病院であり、慶應義塾大学各医局との間での人事交流や人材派遣も密になっています。年齢の近い後期研修医からも指導が受けられる屋根瓦方式です。各研修医の実力に合わせて段階的にきめ細かい指導を行います。各科の垣根がなく、他科の指導医にも気軽に質問できる雰囲気です。 診療スタッフの一員として、アットホームな環境で活躍の場を持ちたいという元気な研修医の方、是非当院の研修にいらしてください。お待ちしております。
現在、当院の研修医の在籍状況は基幹型で1年次が3名、2年次が3名在籍しており、慶應の地域-大学循環コースの1年次が1名となっております。医局内に設置された研修医室で机を並べ、情報交換ができる環境であるとともに、医局内であるため指導医にすぐに質問できる環境となっています。
初期研修医の先生の評価が高い点は、救急の研修を立川災害医療センターで学べるなど、近隣の専門病院でも学べる柔軟なカリキュラムにあります。学生教育・初期後期研修を一貫して指導していく体制をめざします。

○研修医からのメッセージ
日野市立病院における研修の一番の特徴は「カリキュラムの柔軟さ」です。研修中の科は勿論の事、希望さえあれば研修中以外の内容であっても様々な手技や技術、症例に関して経験することが出来ます。また近隣の立川や八王子の大型病院との連携も良好で、皆さんのやる気さえあればどんな研修でも可能になる土壌が整っていると思います。研修医数が少ないため症例の取り合いになる事もなく部長クラスの先生から直接指導を受ける事が出来、指導医の先生方は日常診療に関する事から学会発表、論文執筆に至るまでとても親身になって教えて下さいます。加えて、各科の垣根がなく研修中以外の科であっても気軽に質問できる環境がある事も研修医にとっては大きなポイントだと思います。また、病院全体としての雰囲気も良好でコメディカルの方達との連携も良く、初めてでも仕事がしやすいです。日野市立病院では皆さんの希望に応じた、充実の研修を受ける事が出来るものと思います。じっくり研修を受けたい人、手技を身に着けたい人など、是非一度見学に来てみて下さい。皆さんをお待ちしています。

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項
・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

研修実施責任者　三浦　弘志

※問い合わせ先
担当部署・担当者名：事務部総務課・加賀山　麻里/阿部　利奈

住所：　東京都日野市多摩平４－３－１

TEL：　０４２－５８１－２６７７

E-mail：　h-soumu@city.hino.lg.jp